

沖繩、音楽、情熱

子供の頃、三線店を営む祖父の手伝いをしてきた。三線の皮の張り替えを終えたら「りんけん、ふかんかい、んじてい、さんしん、ぬ、うとう、ちちくーわ」と祖父は言った。「林賢、外に出て三線の音を聞いて来い」と言うのだ。

新しく張り替えられた三線の音がどこまで聞こえるか確かめる。僕はまず北の道をまっすぐ向った。祖父の弾く三線の音が小さくなってくる。かすかに聞こえるところで止まるのだ。これ以上進んだら音が聞こえなくなる。一度は戻ってきてさらに西に向う。又同じように音が聞こえる場所を確かめるのだ。次に南と東に向う。それを祖父に報告する手伝いは面白かった。

沖繩の三線の竿はユシ木や黒木で作る。それが当たり前時代の時代があった。ユシ木は練習用で黒木はちゃんとした楽器として考えられていたのだ。でもユシ木も黒木も数がとれなくなりフィリピン黒木なるものまで現れた。僕が始めてフィリピン黒木を見たのは四〇年前である。見た目は沖繩産の黒木にしているのだが、ちゃんと見るとフィリピン黒木は気孔が多い。だから沖繩産の黒木と比べると柔らかい。三線の材料の見立て方は色、重さ、堅さ、それに年数なのだ。木を切り出してから三線が作れるまでの時間も必要である。まだ乾燥していない材料で作

照屋 林賢

プロフィール
沖繩県コザ市生まれ。祖父・林山と父・林助はともに沖繩を代表する音楽家。1967年、西洋の音楽理論を勉強するために上京。1977年りんけんバンド結成、90年アルバムCD「ありがとう」で全国デビュー。93年日本レコード大賞特別賞受賞。自作詩曲「春でえんが」が中学国語教科書に採用される。沖繩固有のリズムとメロディにこだわりながらりんけんサウンドの創造を続けている。

るとのちに竿が曲がつてしまう事もあるのだ。

僕個人的にはユシ木が好きである。山原（沖繩本島北部）にたくさん生えていたらしい。黒木と比べて粘りがある。それに黒木より安かったのだ。八重山でとれる黒木はエーマクルチ（八重山黒木）と呼ばれ、とても有名である。特に三線を演奏する人たちにとってはエーマクルチで作った三線を持つことはひとつのステータスだ。古い民家の床柱などに使われていた黒木は高い値段で売り買いされていた。「くれー（これは）えーまから（八重山から）むつちちえー（持つてきた）くるちやさ（黒木だ）」という会話は最近聞かなくなった。

沖繩から三線を作る材料がなくなる日がきたらどうしよう。でも心配はいらない。沖繩の人はすぐに代用品で製作するはずだ。ワシントン条約でインドネシアからにしきへびの皮の輸入が規制された時も人工皮を考案した。それに戦後アメリカ軍の捕虜収容所で簡易ベットの材料と空き缶でカンカラ三線を作り、パラシュートの布をへび皮のように張ったりもした。そして三線を作る技法をうまく利用して電気ギターも製作したのだ。照屋楽器店にアメリカ兵が持ち込む故障した電気ギターを分解しているうちに製作をしてみようと思ったという。沖繩人の音楽にたいする情熱はどんな時代でも乗り越えて来た。

月刊 みんなぱく

8月号目次

- 1 エッセイ 千字文
沖繩、音楽、情熱
照屋 林賢

特集

ハイブリッドか ちゃんぽんか

- 2 自然界のちゃんぽん
——バイオミネラルにまなぶ次世代材料の開発 西村 達也
- 4 ミックス・ルーツが開く扉 竹沢 泰子
- 5 ハイブリッドは日本宗教のお家芸だ 白川 琢磨
- 7 ごちゃまぜではないハイブリッド言語 ダニエル・ロング
- 8 エレクトリック三線「チエレン」 呉屋 淳子

- 10 似たモノさがし
ちゃんぽんな獣たち
立川 武蔵

- 12 みんなぱく Information

- 14 地球ミュージアム紀行
探究と包摂のための博物館
——国立台湾歴史博物館

野林 厚志

16 多文化をあきなう

- 「オヤ」によるクルド難民女性の自立支援
鶴木 由美子

18 フィールドで考える

- 工人たちとの対話——アルメニア建築を読み解く
藤田 康仁

20 人間学のキーワード

- ユニバーサルデザイン
広瀬 浩二郎

21 異聞逸聞

- 移民のミックス文化——インスタントラーメン
庄司 博史

22 制服の世界、世界の制服

- 葬儀屋さんの制服
田中 大介

- 24 次号予告・編集後記